

沢渡温泉

現在沢渡温泉となっているエリアは、鎌倉時代（1185-1333）に各地方と幕府の所在地であった鎌倉の町とを結んでいた、かつての幹線道路網上の宿場町でした。「サウンド」という名称は大まかに訳すと「沢を渡る」という意味で、このエリアはかつての令制国、飛騨と信州（それぞれ現在の岐阜県と長野県）の国境として知られていました。

オンセンとは「温泉」を意味し、この地の温泉施設の開発は 1998 年に北アルプスを貫く安房トンネルの工事がそれまで知られていなかった温泉の源泉を引き出したときから始まりました。そのお湯は透明で、かすかな硫黄の匂いがあり、山から湯船まで 7 キロメートルをパイプで下りながらも、70℃前後を保っています。

中部山岳国立公園と日本アルプスの下端に位置し、東にある松本市に直接アクセスできる沢渡温泉は、このエリアの観光およびアウトドアスポーツの玄関口となっています。
見所としては、上高地、乗鞍高原、白骨温泉、および奈川の町などが挙げられます。